



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● **今週の概要**

■ **今週の感染症情報**



（調査週）平成24年 第30週 7月23日（月）～7月29日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位5疾患）（5週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	ヘルパンギーナ	2.49	↑	↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.03	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.51	→～↓	↓	→～↓	→～↓
4	咽頭結膜熱	0.43	→～↓	→～↓	→	↑
5	水痘	0.26	↓	↓	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は87例で、前週報告の93例からやや減少。上位5疾患は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱＝手足口病の順で、ヘルパンギーナが第28週から3週連続での第1位。ヘルパンギーナの報告数（41例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（3例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（22例）は、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（3例）も、ほぼ横ばい。水痘の報告数（6例）は、ほぼ半減。A群溶連菌咽頭炎の報告数（4例）は、ほぼ半減。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。また、奈良市HC管内基幹定点から、無菌性髄膜炎が2例（1～4歳児、10～14歳児）報告された。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は、夏休みになり予防接種希望者以外は減少している。感染性胃腸炎は細菌性が僅かにあるのみとなっている。夏風邪は突然の高熱、頭痛、咽頭痛などのいわゆる夏風邪が一番多く、次いでヘルパンギーナがみられるが、今年は手足口病はほとんどない状態が続いている。流行初期のころに依頼したウイルス培養は全て検出不可であった。これ以外では、水痘と溶連菌咽頭炎がみられる。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、127例から105例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、44例と減少傾向であり、ヘルパンギーナは32例と増加している。基幹定点からは、葛城保健所よりマイコプラズマ肺炎1例(5~9才)の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来情報 外来数は多くない。アデノ様咽頭炎、軽度感冒症状が主。ヘルパンギーナ、手足口病は殆ど見られない。感染性胃腸炎が小流行。その他A群溶連菌感染症、水痘が少し。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第29週→第30週)は16例→28例と増加。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ(4例→14例)、②感染性胃腸炎(6例→5例)、③突発性発疹(1例→3例)、④水痘(1例→2例)、④A群溶連菌咽頭炎(2例→2例)、⑥咽頭結膜熱(1例→1例)、⑥流行性耳下腺炎(0例→1例)であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 外来数はやや増加したが余り多くはない。発熱、頭痛、咽頭痛などの夏風邪が多くなっている。ヘルパンギーナはあまり流行しないままに減少傾向。手足口病は全くない。感染性胃腸炎も少ない。水痘、流行性耳下腺炎もなし。咽頭結膜熱が僅かにあった。

(山本 記)

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます

アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

